

発達遅滞児の援助過程について(2) 一母子の社会への自立過程と援助一

○宮地 文子 奥平洋子

(埼玉県立衛生短期大学)

＜研究目的＞

前報告にみるように、主として母子関係の安定に重点を置いたオ1年目につづき、オ2年目はフォーマルな集団への参加をめざした援助過程とし、その過程を分析することによって本活動の意義を明らかにしたい。

＜研究方法＞

母親と子どもの自己実現を促す働きかけによって、母子関係の安定化を図り、子どもの生活を拡大させることを意図した保育プログラムを設け、つぎの2点から援助過程を分析した。①保育の中で観察された子どもの行動発達、②グループカウンセリングにみられた母親の意識と行動の変化

＜援助過程の分析＞

1. 保育プログラム：本グループ活動のポイントは、母親の自覚性と自己実現においた。したがって保育プログラムは、母親の意見も取り入れて、子どもの発達に見合う内容を工夫した。

また子どもには、度持ち学生を決め、家庭訪問や幼稚園、保育園、諸機関への同行も行い、母親の課題を共有していく試みもした。その結果、表(1)、(2)に示す保育プログラムと保育の流れが形づくられた。

表1. グループ活動の流れ

	グループ活動の内容
1:15	自由遊び 情報交換
2:00	お片づけ
2:10	手遊び
2:10	設定遊び
3:00	お片づけ
3:00	オヤツ(全員揃う)
4:00	保育と母親面接の報告 次回の打ち合わせ
4:00	おわりのあいさつ

2. 子どもの発達に関する援助：3～4才になった子どもたちの1年間の行動観察から発達上の変化をあげる。感覚運動的な遊びが好きな子どもたちに、その興味に即した遊びの場を設けることで、子どもたちは身体を動かして好きなことをする楽しさを覚えて、遊びに集中できるようになった。身体を使い、エネルギーを発散して遊び込むことは、外界を認知し統制していく複雑な運動を可能にし、人への関心や遊びへの意欲が広がっている。

言語発達に関しては、子どもたちは熱中した遊びに関連して言葉の表出がみられ、遊びで気持ちを発散している時に大きな声を出している。初めはおうむ返し

言葉であったが、自分と他人を意識化することによって、自分の行動やイメージを使って考えたことを言葉として表出している。この場合も仲間との関係と接する場が重要な環境として作用している。

社会性の発達では、学生との1対1の関係が深まること、次第に自分自身の独立した行動がとれるようになり、子どもどうしの連がりが生まれている。また、決めた場所に自分の持ち物を置く、出席シール貼り、手遊び、歌、お片づけ、オヤツを毎回取り入れることで、これらの行動の理解や保育への適応が図られた。

3. 保育活動に対する母親の意識と行動：グループカウンセリングの中で、保育園や幼稚園に入園した子どもの母親は、集団生活の中に見られる不安や疑問を話し、そこで問題と自分と客観視して適応の仕方を見つけ出している。また具体的な保育内容の是非をあげることから、相互の育児観の違いや、諸機関の方針や指導内容についても感じたことを話し合い、自己の方針を述べ、それを行動化する過程が生まれている。新しくグループに参加した母親も、他者の経験と話し合いの中から同様のプロセスをたどっている。そして地域のフォーマルな集団を探し、そこに参加することによって先方との相互理解を深める努力を行動化している。

母親にとって、体験や悩みを話し合うことは、自己を他者の中に客観化して見ることで、他者の体験を自己に取り入れることのプロセスであり、子育ての中に自己発現としていくプロセスにもなっている。

＜考察＞

本グループ活動は、インフォーマルな性格が強く、子どもと親が参加する期間も比較的短い。しかし、フォーマルな集団に参加する前の母と子にとって、このような活動の存在意義は大きいと考える。その理由は、①子どもの発達に促進的な母子関係を具体的に、主体的に成立させる、②フォーマル集団に適応する子どものレディネスを高める、③子どもに見合った集団保育の場を見つけ適応をはかるよう援助できるからである。

なお、このような援助過程では、母と子と自立促進的に発展し、そこをホームベースとして、母と子が自己実現をはかりながら社会参加していくための諸要因を重視する必要があると考える。

表2. 2年目におけるグループ活動と母子の社会への自立過程

(年齢は4月現在を示す)

	I期 子どもを把握する (4~5月)	II期 子どもと遊び込む (6~8月)	III期 遊びが発展する (9~11月)	IV期 全員で行事を楽しむ (12~3月)
保育のゆらい内容	○グループにはれる 電車ごっこ 大きな積木で遊ぶ 公園に行く	○全身を使って遊ぶ。 感覚遊びと楽しむ 大玉、自動車、マットなど 大きな紙に絵をかく 手遊び・小麦粉粘土 プール・水遊び	○遊びをくり返し発展させる 手遊び、お絵かき 新聞紙破り 落葉拾いと落葉の創作	○子どもと参加者全員で 行事を楽しむ クリスマス会・やき焼 おめかし会(卒業生参加)
子どもの遊び・言語・社会性の発達	A(4才0ヵ月) 幼稚園に入る ・フズフズに興味を喪失 ・力加減がわからない ・標識に固執した言葉が多い ・対人関係は豊かで、自主性	A・指示を理解して遊べる ・自分の行動を言語化し 自発語多い ・情緒が豊かになり自己統制可	A・ルールを楽しんで遊ぶ ・指示を理解し会話が多くなる ・言語で自己を統制し ・対人関係が深まる	A・仲間や先生とのかかわり 楽しんで遊ぶ ・人への呼びかけと会話が 多くなる ・保育園であったことを話す
	B(4才2ヵ月) 保育園通所施設 ・生活がはかばか、協調運動が熟 ・ゲームの指示を理解する ・後身で母親を頼る	B・遊びだすと集中する ・自分の気持ちを伝え 向いかけをする ・競争意識、役割意識がでる	B・遊ぶ意欲と積極性がでる ・人への呼びかけがある ・リーダー的な役割をとる	B・転居し幼稚園をかわる (新しい幼稚園にはれる)
	C(3才3ヵ月) ・多動、感覚運動を好む ・人の手を引いて意欲を示す ・人への関心がみられたい	C・オナニー・手をヒラヒラさせることがある ・人と視線を合わせたり 手をたたくことがある ・遊びに熱中すると発声多	C・いろいろな遊具で遊ぶ ・声を立てて笑ったり、泣いて 先生のところへ来るようになる ・人の顔を見たり、動きに 関心を示すようになる	C・通所施設(毎日)に入る (母子通園中) (全身で感情を表現)
	D(3才0ヵ月) つま先走り ・新しい遊びや運動に興味 ・模倣力がある ・ママゴトの中で発語する ・母とたよるようになる	D(保育園に入園する (模倣の活発化) (排泄の自立)	D 保育園 (友だちとごっこ遊びをする) (あいさつが言える)	D 保育園 (クリスマスの遊戯会) (皆んなと一緒にできる)
		E(2才11ヵ月) ・歩行不安定・座って遊びが主 ・指さしをまかんにする ・オヤツの手伝いをする、怖がり	E 歩行が安定し、仲間のする ことをやろうとする ・口真似と発声が多くなる ・リズム遊びと真似で楽しむ	E 生活は遊びに4+1になる ・単語がみえ、声が大きくなる ・グループ活動の流しを 楽しんでいる。
保育に対する母親の意識と行動	A 幼稚園は自由な行動を許 されているが、近所では問題 B 行動療法プログラムを こにも導入した C 氷子出生でゆとりがなくな った、子どもを抑制し た D 子どもへのかかわり方は 分ってきたが、姑とのトラブル が多い 保育園をさがし始める	A 保育参観で子どもの様子 あらためて知ってショー 担任保育士の信頼を得る B 保育園と訓練会をききしめ こで子どもをリラックスさせ C 医学的治療を希望し受け 子どもの遅れを改善する D(保育園に入園できて) (ホッとしている) 気持ちにゆとりができた E こに適應できるか不安 子育てについて学ばない	A 幼稚園には適應したか 子どもへの接し方で疑問 も多かった B 転居を前に幼稚園遊び で悩む C 毎日の保育を希望 児童センターに遊びに行き 転居をひかえている D(保育園で遊びたいので) (うれしい) E 生活習慣の自立をはか っている こにまるとが楽しみ になる	A グループ活動のありかたに 積極的に参加 B(新しい幼稚園に主体的 (に適應している) C(通園施設に入って (ホッとした) D(父母共に熱心な父兄 (となる) E 幼稚園を希望し、地域の 保健婦と働きかけている 9月から入園のためとなく